

第15回

国土交通中部地方有識者懇談会【まんなか懇談会】

会議資料

まんなかビジョン改訂に向けた
議論の方向性について

2006.07.24

背景

・まんなか懇談会 ポスト万博宣言(提言)の課題から

「選択と集中」

将来の社会経済条件の変化(人口減少の到来)に適切に対応し、財政制約下、優先順位を明確化して施策・プロジェクトの選択と集中投資

「自助・共助・公助による協働の実現」

自助・共助・公助の役割分担を再認識し、住民・企業・行政の新たな協働を実現

「適正な国土の形成」

都市部と山間部のそれぞれの役割が果たせるような国土を形成

「新たな圏域の認識」

既存の圏域にとらわれることなく柔軟かつ広範的に改めて圏域を認識

・次期社会資本整備重点計画の今後の検討方向(案)

社会資本整備重点計画に係る基本問題小委員会資料より

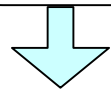
到来する人口減少・少子高齢化は我が国経済社会に構造的な変化をもたらす。地域別にも異なる状況と想定される。この結果、社会資本に対する要請は、質量ともに大きく変化することが見込まれる。社会資本の整備・更新に際しては、長期的な需要の変動を見込んだ適切な対応が必要である。

日本の経済社会の投資余力は低下している。当面、財政制約が続くなか、社会資本整備を戦略的かつ重点的に推進するとともに、執行方法の再検証が必要である。

次期「社会資本整備重点計画」の策定に当たっては、上記の認識に立って、将来の我が国のあるべき姿を念頭に置き、次の世代のために何が必要かという「ストック」の観点を踏まえて検討すべきである。

以上のことから今後の議論となると考えられるキーワード

「人口減少」「少子高齢化」「住民・企業・行政の新たな協働」「新たな圏域」
「都市部と山間部のそれぞれの役割」「財政制約」「万博理念の継承」
「次の世代のために何が必要か(ストックの観点)」「広域的防災」「市街地の集約」
「環境負荷の軽減」「社会資本の要請の変化(質量)」「地域資源の活用」
「都市再生」
等



候補テーマ(事例)

「自立した中部圏のあり方について」
「人口減少時代の都市のあり方と中山間との関係について」*
「地域の自立に向けた活力基盤の確立」
「住民・企業・行政の新たな協働による安全安心基盤の確立」
「国土環境の保全や次世代のためのストックの観点から真に必要な社会資本整備」

等

他のキーワード、議論すべきテーマは何か？

まんなかビジョン改訂に向けた
議論の方向性について
(参考資料)

* 候補テーマの1つの例示

「人口減少時代の都市のあり方と中山間地との関係」

について議論

・人口減少時代の都市のあり方と中山間地との関係について(背景等)

ポスト万博宣言 テイクオフ2005

50年スパンで取組む政策主題の1つ「健康で美しく、人にやさしい圏域」を構築するための戦略等として、都市部における“コンパクトな都市構造の転換”、中山間地域の森林・農地の問題への対応がセットで示されている。



長期的な圏域の方向性として、コンパクトな都市と中山間地域の保全がセットで形成されることを重視。

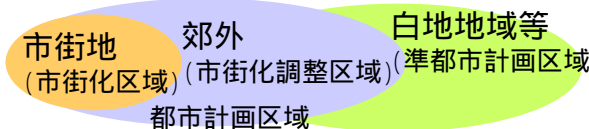


「社会資本整備審議会答申」
新しい時代の都市計画はいかにあるべきか(第1次答申)

今後の都市計画、建築整備のあり方として「集約型都市構造」への転換が必要であり、市街地への街なか居住とともに、市街地周辺(白地地域も含む)での広域都市サービス施設等の郊外立地の規制が必要との方向性が示されている。



中心市街地の空洞化等の対応として、市街地周辺も含め土地利用規制を行い、集約型都市構造へ転換が必要。

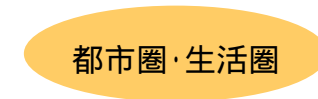


「国土審議会計画部会」での議論

人口減少社会における都市について、都市圏、生活圏の持続可能なあり方として、市街地の集約化(コンパクト化)による維持更新投資や移動コスト縮減、社会サービス供給の効率化のため計画的な市街地の縮減について議論されている。



市街地のコンパクト化のため方向性、考え方について計画的な市街地縮減等様々な観点から議論されている。



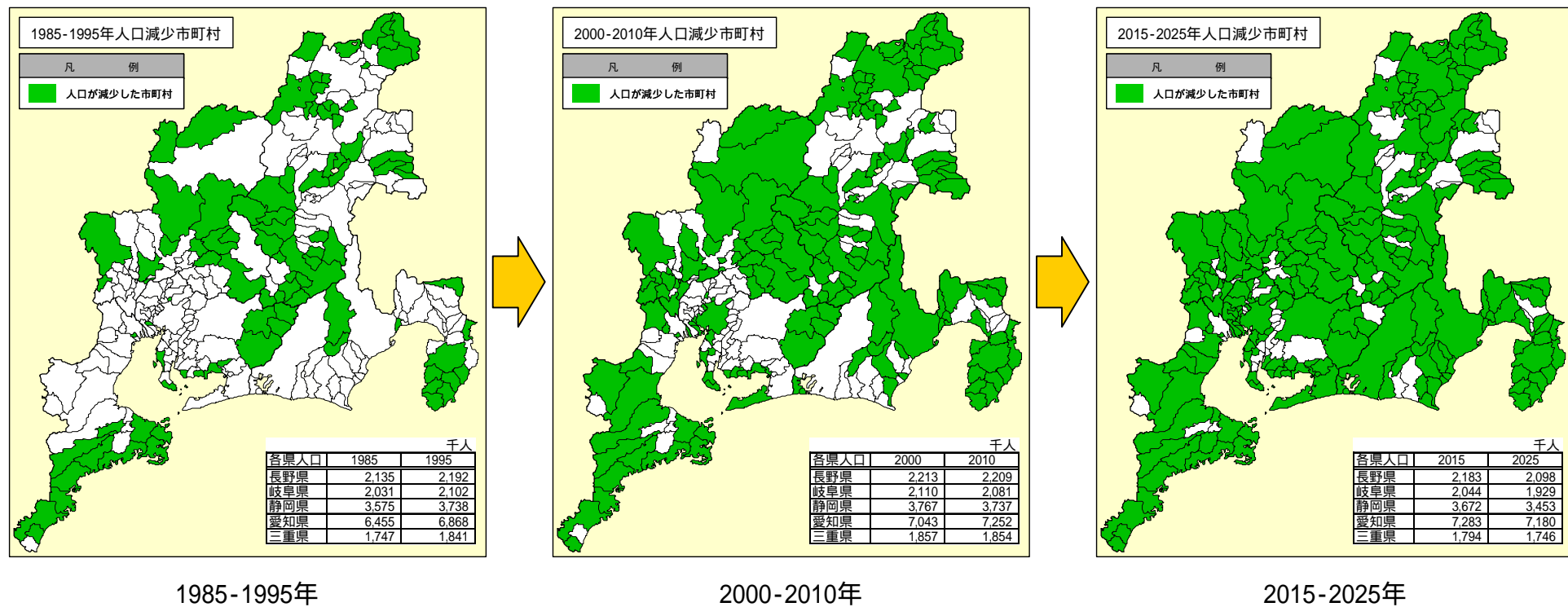
人口減少社会への対応として、
都市のコンパクト化と中山間地域の保全について方向性の具体化

2. 候補テーマによる一つの例示（論点資料のイメージ）

6

人口の見通し - 人口減少を迎える市町村の変化

市町村別の人口の推移は、これまでの都市部での人口増加・中山間地域での人口減少から、今後は、名古屋市及びその周辺でも人口減少が進展する。



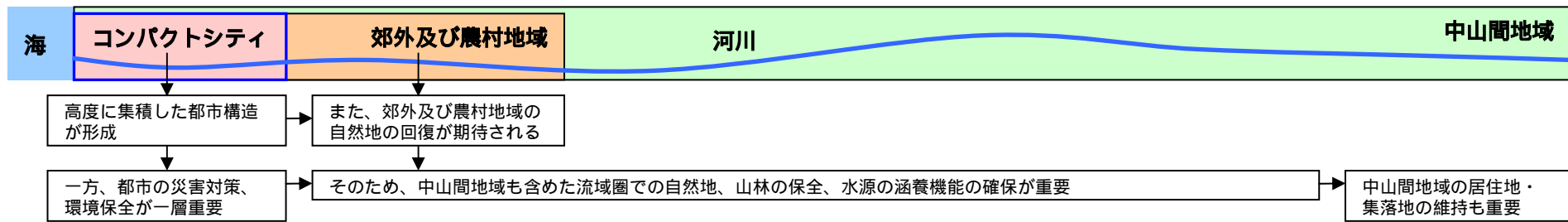
市町村境界は平成18年3月31日現在で統一

出典：市区町村人口の長期系列（日本統計協会）

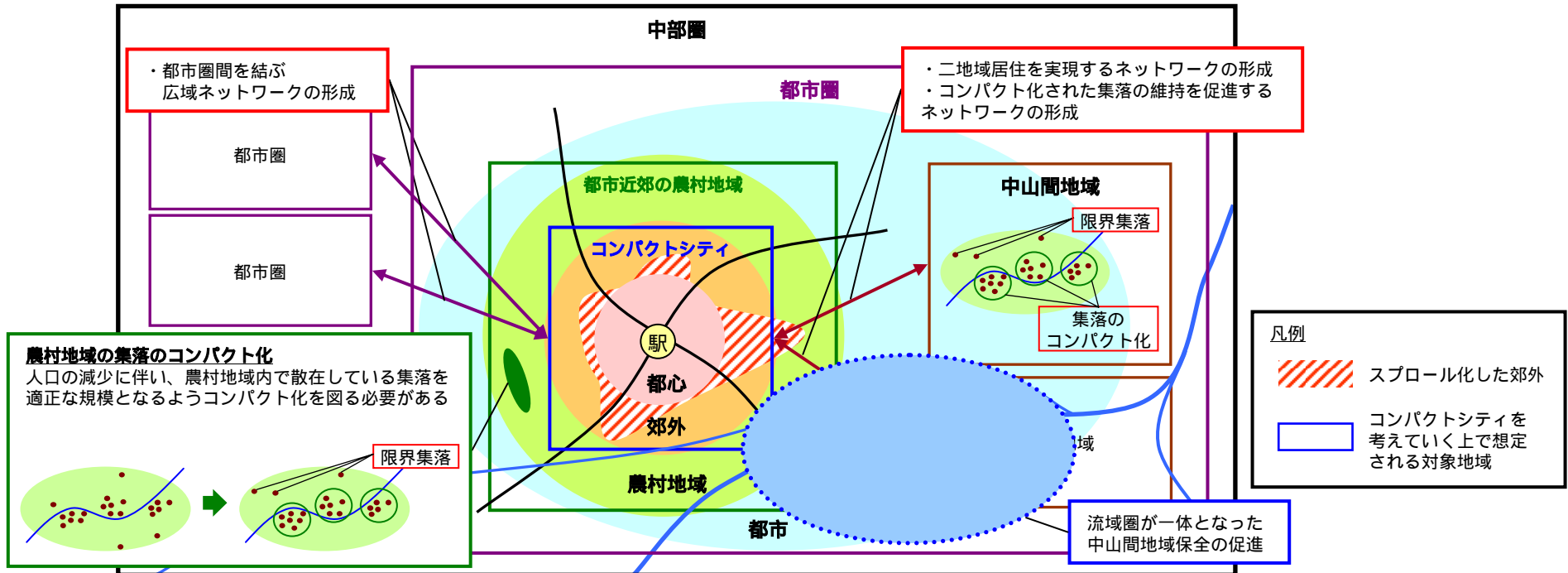
2005年以降の人口推計については、(財)統計情報研究開発センターの人口推計を使用

中部における流域圏を基本とした都市と中山間地域との一体的管理の意義

人口減少等、社会経済情勢の変化に伴うコンパクトシティの志向	
<p>都市における意義</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 住みやすい魅力的な都市の形成 ・ 効率的に生活できる都市構造の形成 ・ 環境負荷の小さい都市構造の形成 <p>都市圏間を結ぶ広域ネットワークの形成</p>	<p>中山間地域における意義</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 人口減少に伴う「維持すべき集落のコンパクト化」の促進と「限界集落」発生の抑制 ・ 流域圏が一体となった中山間地域保全の促進 ・ 人口減少・流出に伴う自然や農地の荒廃に歯止め <p>コンパクト化された集落の維持を促進するネットワークの形成</p>
二地域居住の実現 二地域居住を実現するためのネットワークの形成???	

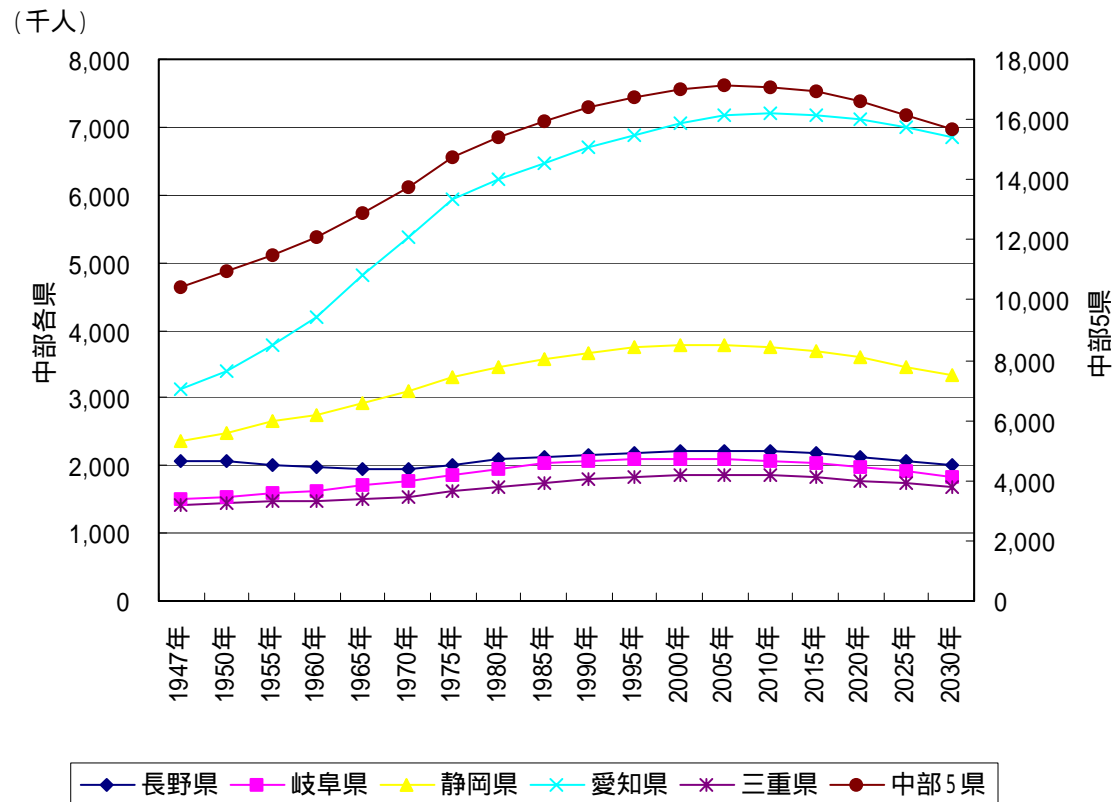


都市災害、環境保全等の観点から、**流域圏を基本とした中山間地域等との一体的管理を推進**



(参考-1) 人口の見通し - 県別にみる人口の推移

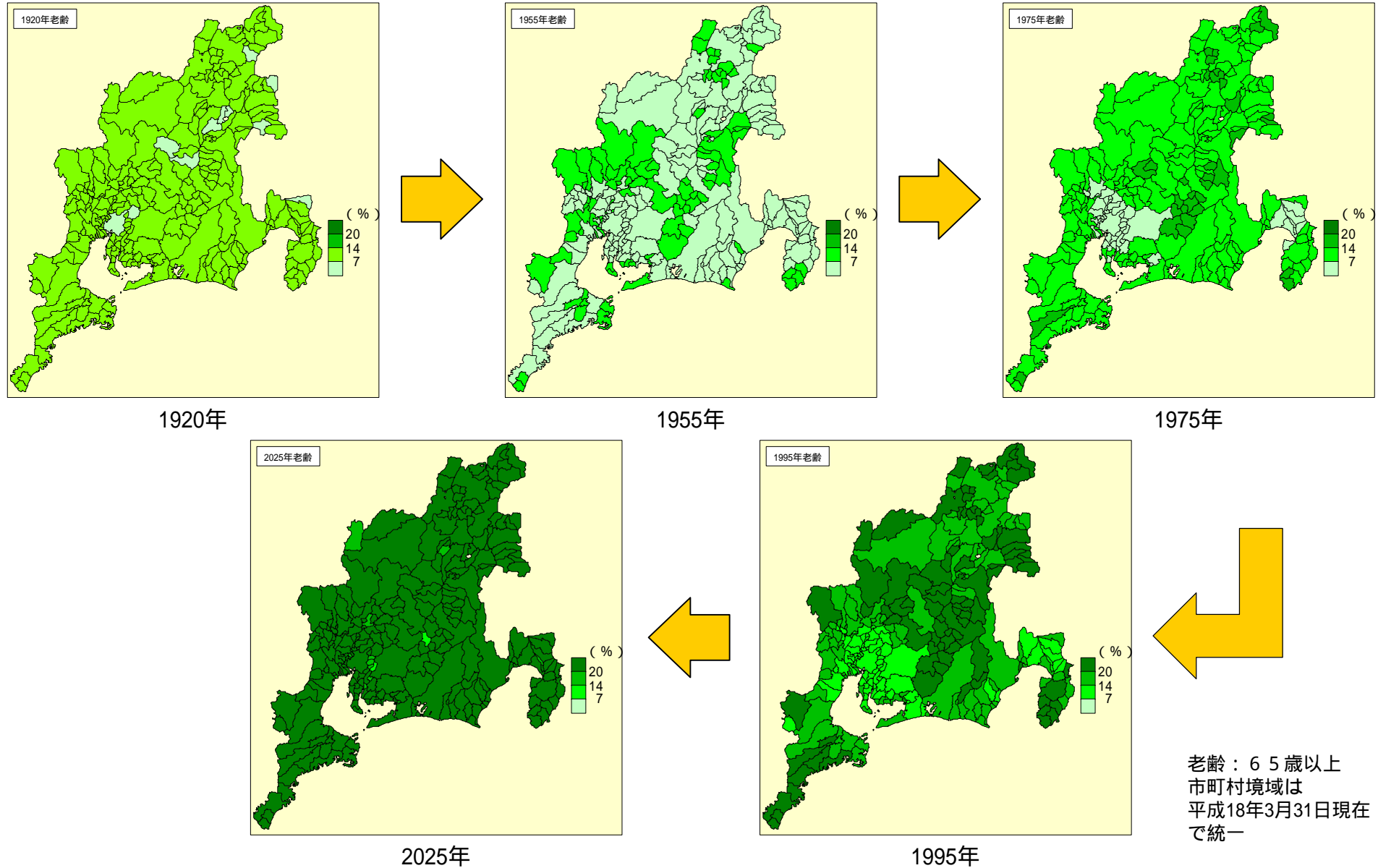
- ・我が国では、急速な人口増加と経済発展に象徴される成長社会から、経済のグローバル化、人口減少と少子高齢化の進行による成熟化社会を迎えようとしている。
- ・中部5県の人口は2010年をピークに減少に向かうと予測されている。
- ・各県別の人口は、岐阜県では昨年までにピークを迎え、今後、人口は減少する。長野県、静岡県、三重県は2010年にピークを迎え、愛知県は2015年にピークを迎えると予測されている。



	1947年	1950年	1955年	1960年	1965年	1970年	1975年	1980年	1985年	1990年	1995年	2000年	2005年	2010年	2015年	2020年	2025年	2030年
長野県	2,060	2,061	2,021	1,981	1,958	1,957	2,018	2,084	2,137	2,157	2,194	2,215	2,222	2,209	2,176	2,127	2,068	2,006
岐阜県	1,494	1,545	1,584	1,638	1,700	1,759	1,868	1,960	2,029	2,067	2,100	2,108	2,103	2,080	2,039	1,980	1,909	1,831
静岡県	2,353	2,471	2,650	2,756	2,913	3,090	3,309	3,447	3,575	3,671	3,738	3,767	3,774	3,746	3,684	3,588	3,468	3,330
愛知県	3,123	3,391	3,769	4,206	4,799	5,386	5,924	6,222	6,455	6,691	6,868	7,043	7,159	7,205	7,188	7,114	6,992	6,834
三重県	1,416	1,461	1,486	1,485	1,514	1,543	1,626	1,687	1,747	1,793	1,841	1,857	1,862	1,850	1,822	1,780	1,728	1,669
中部5県	10,446	10,929	11,510	12,066	12,884	13,735	14,745	15,400	15,943	16,379	16,741	16,990	17,120	17,090	16,909	16,589	16,165	15,670

(参考-2) 人口の見通し - 市町村別に見る高齢化率の変化

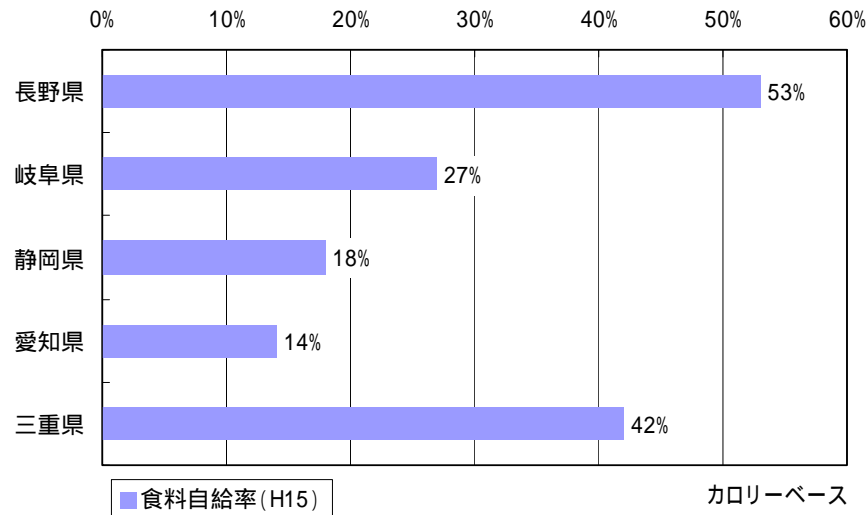
中部地方の高齢化率を市町村別に見ると、特に中山間地域において高齢化が進展し、将来的には中部全域に高齢化が進展する。



出典：市区町村人口の長期系列（日本統計協会）
2005年以降の人口推計については、(財)統計情報研究開発センターの人口推計を使用

(参考-3) 食料自給率と耕作放棄地率の現状

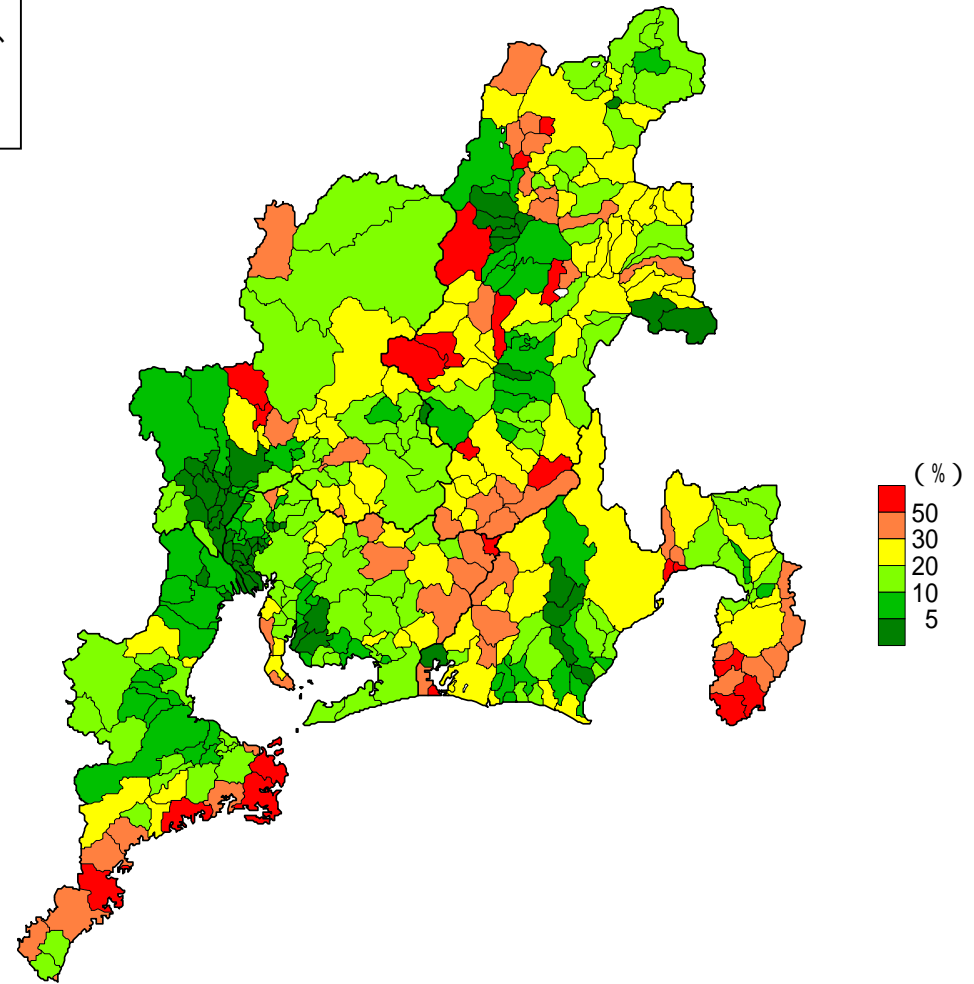
- ・中部地方の食料自給率は、特に、愛知県、静岡県、岐阜県で低い
- ・また、耕作放棄地率は、中部では愛知県東部、三重県沿岸部、静岡県伊豆半島南部、長野県南信地域、長野県西部に見られるように県境部の中山間地域において耕作放棄地率が高い



食料自給率はカロリーベース

中部地域の食料自給率 (H15)

出典：都道府県別食料自給率について
(H17.11.25農林水産省プレスリリース)

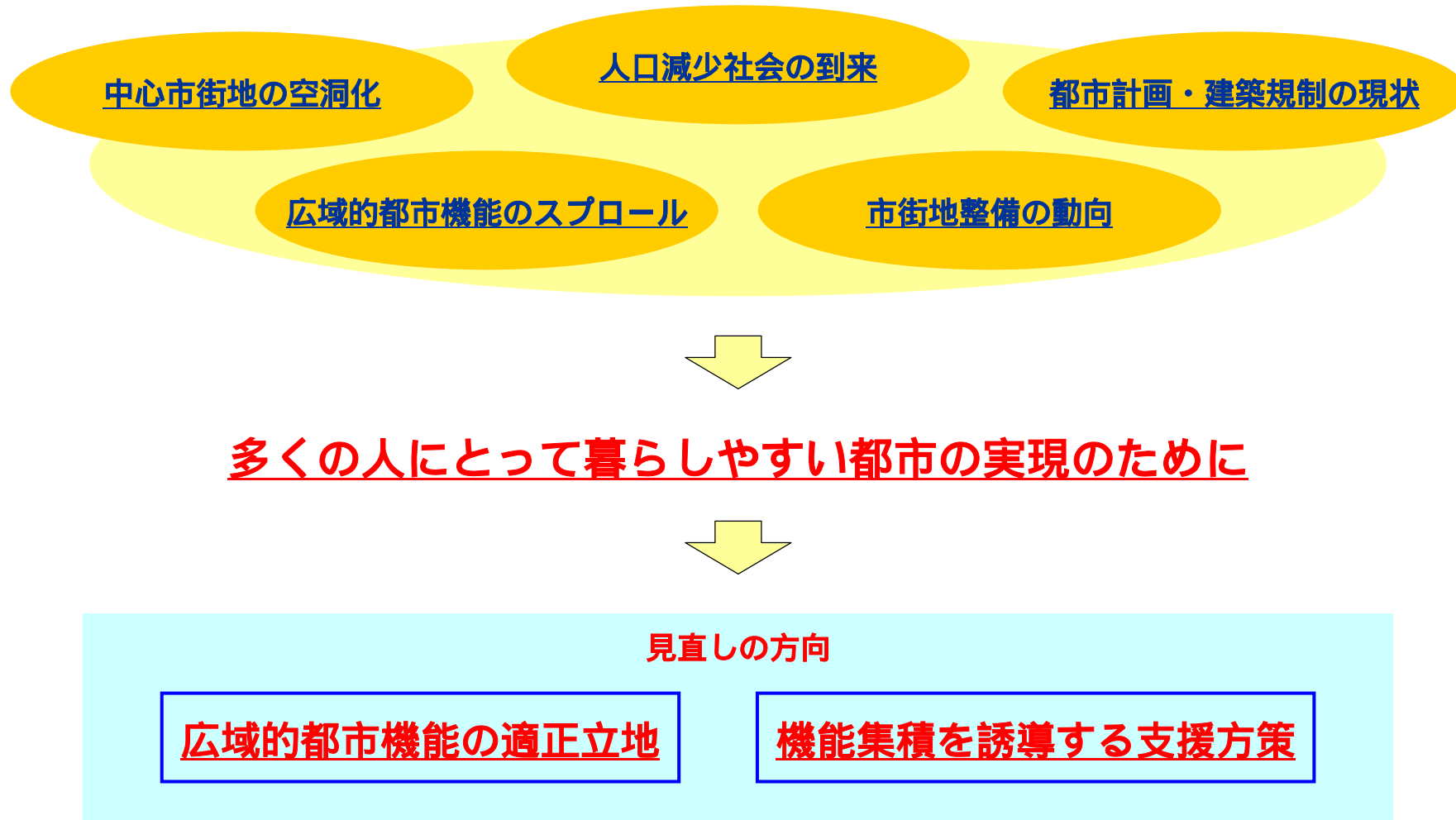


耕作放棄地率 = 耕作放棄地面積 / (耕作放棄地面積 + 経営耕地面積)
市町村合併は、データの構成上2005年2月1日現在まで対応

中部地域の耕作放棄地率

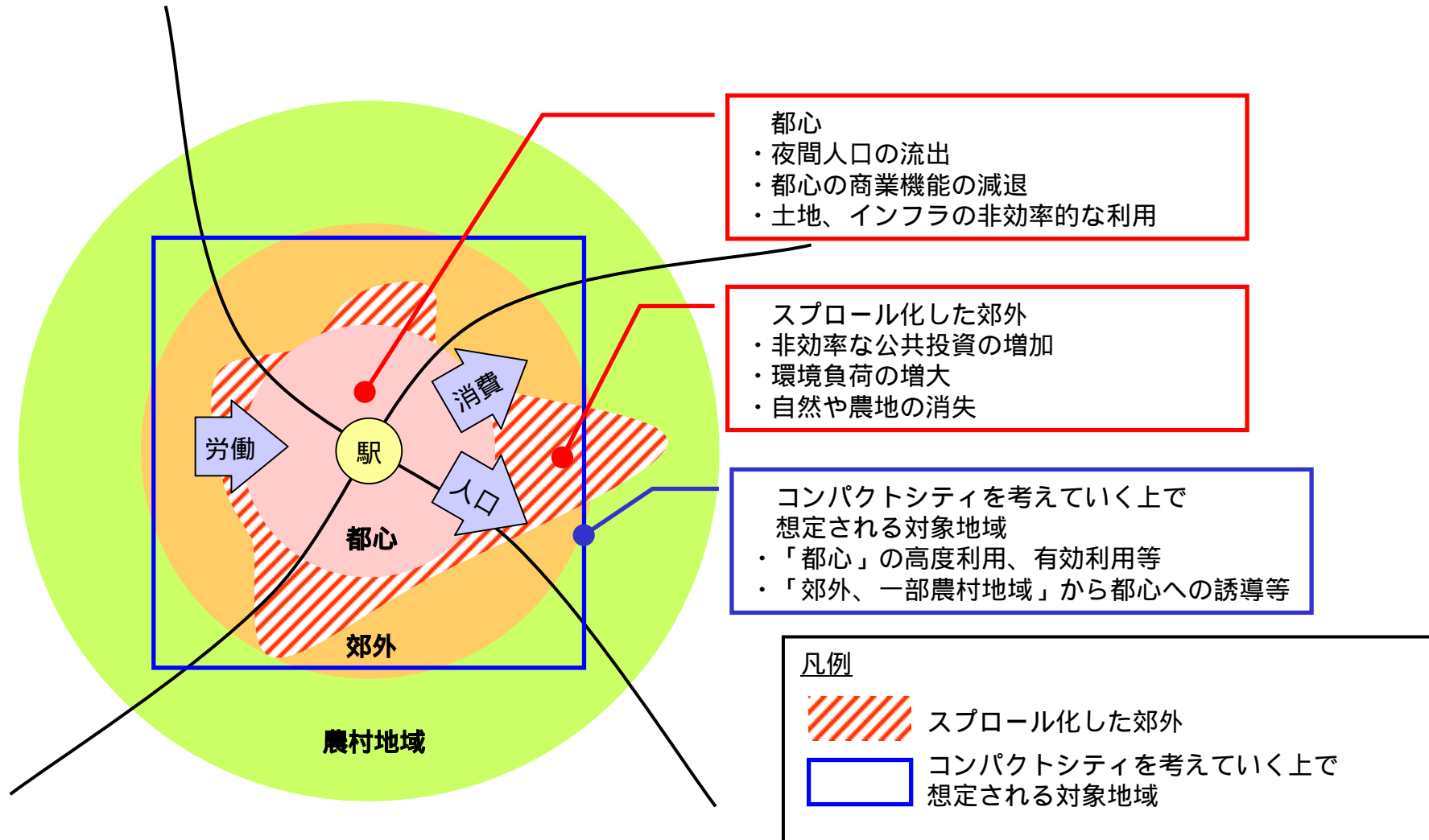
出典：農林業センサス2005
参考：農林水産省HP

出典:『社会資本整備審議会答申「新しい時代の都市計画はいかにあるべきか。(第一次答申)」
及び「人口減少等社会における市街地の再編に対応した建築物整備のあり方について」
について(平成18年2月)』より一部抜粋



都市の現状

- ・都市のスプロール化により、夜間人口の減少、都心の商業機能の減退が顕在化している
- ・都心部では、未利用地の散在、土地の低利用により、整備されたインフラが有効に利用されず非効率な状況にある
- ・郊外では、市街地の無秩序な拡大により、都市近郊の農地や緑地の消失を招き、居住地が散在したことによる非効率な公共投資の増加、モータリゼーションの発達による環境負荷の増大がみられる



コンパクトシティのイメージ

都市がコンパクトになることで・・・

- ・ 都心にさまざまな機能を集めることによって、相乗的な経済交流活動が活発になり、中心市街地の活性化も期待できる
- ・ 高齢者などの自家用車を利用しにくい人々が、歩いて商店街や公共公益施設を利用することができる
- ・ 都心居住の促進により、職場と自宅が近くなり（職住近接）、通勤による渋滞を緩和することができる
- ・ 近郊の自然や農地が保全できる

コンパクトシティ形成の必要性

人口減少・少子高齢化の進展

- ・ 人口問題研究所の推計では、2007年前後を境に全国の人口は減少に転ずると言われており、中部においても、2010年をピークに人口は減少に向かう

郊外化の是正と都心高度利用の進展・促進

- ・ 中小都市を中心にモータリゼーションの進展、商業環境の変化などによる都市のスプロール化が進展した結果、郊外部では、住宅団地の造成や大型小売店舗の進出等の開発が盛んに進められる一方、都心部では商業販売額の低下、賑いの喪失、居住者の減少など中心市街地の空洞化が進行し、都心部の衰退、農地の荒廃や緑地の喪失が進んでいる

自然・地球環境の保護

- ・ 地球環境保護意識の高まりなどを背景に、既存ストックを有効利用した都市形成、豊かな自然や農地との共存、公共交通機関の利用促進、エネルギー効率のよい都市構造を目指すなど、環境負荷の小さい都市の形成が求められている

コンパクトシティのまちづくり効果

- ・ 都心での生活 - まちなか居住の実現
- ・ 歩いて利用できる生活の拠点 - 公共公益施設利用の促進 -
- ・ 環境負荷の小さい快適な都市交通 - 公共交通機関の利用促進 -
- ・ 計画的な市街地形成 - 効率的な土地利用と自然・農地の保全 -

『生活圏域』のコンパクト化をコンパクトシティとして表現する

中山間地域の現状と課題

- ・多くの農村において過疎化や高齢化、それらに伴う農業後継者の不足等による地域の活力が低下する中で、耕作放棄地の増加など農地や土地改良施設の維持・管理が困難になってきており、農村が持つ多面的な機能が失われつつある
- ・中山間地域上流の耕作放棄地の増加により、災害緩衝機能、地域的利水機能の低下等によって、下流域や海岸域にまでその影響が及ぶ
- ・森林、農地の荒廃の進展等により、健全な水・物質循環が損なわれ、防災機能や環境保全機能だけでなく地域が本来持っていた原風景や美しい景観、歴史的な街並みが喪失の危機にある
- ・また、都市の災害対策、環境保全、水源の確保等が一層重要となり、都市機能の充実を図るために、中山間地域の自然環境の保全・回復とともに、都市と中山間地域が一体となって自然環境の保全・回復を推進する必要がある

中山間地域（農村・森林）の保全の意義

- ・自然環境、美しい景観の保全
- ・水源涵養による安価で安全な水の確保
- ・土砂、洪水等の災害の防止機能・国土保全
- ・レクリエーション空間の創出や伝統・文化の継承
- ・安全・安心な食物の供給と食料自給率の向上
- ・CO2の吸収による地球環境の保全 など

それらの機能により

- 都市及び都市住民は
- ・都市防災機能が向上し
- ・安全・安心・安価な水、食物が供給され
- ・都市・地域の環境が保全される 等

つまり

- 流域等の一体性を基本としつつ、中山間地域の保全によって都市と都市住民の生活は支えられている

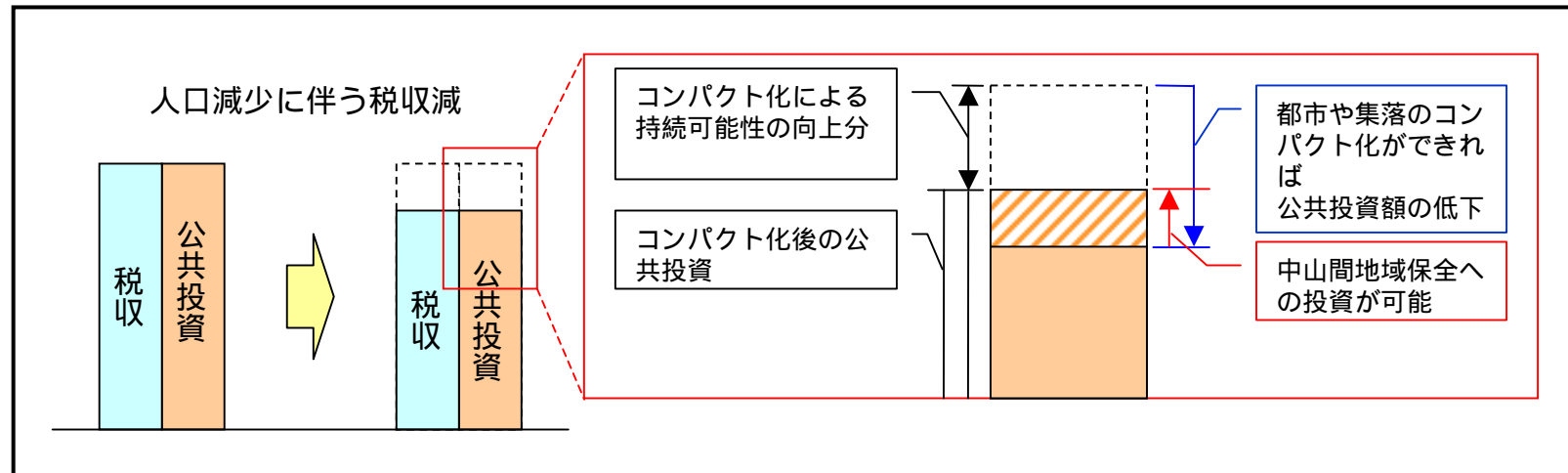
中山間地域（農村・森林）が有する多面的機能

- ・国土の保全機能：田畑の貯水機能による洪水や浸水の防止・軽減、地すべり、土砂崩れなどの発生を抑える
- ・水源の涵養機能：地下水を豊かにし、川の流量を安定させる
- ・自然環境の保全機能：田畑や農業水路など、人の手が入った環境が、メダカなど多くの生物の生息場所となっている
- ・良好な景観の形成機能：農業の生産活動によって田畑や畦道などの良好な景観が形成されている
- ・文化の伝承機能：農業に関する芸能・祭りや様々な農業上の技術、地域独自の知恵などの文化が守り伝えられてる
- ・保健休養機能：都市では見られない景観や自然、環境、そして潤いや安らぎを求めて、農村に多くの人々が訪れている
- ・地域社会の維持活性化：作られた農作物の運搬、加工、販売などの仕事が営まれ、活き活きた地域社会が育まれている
- ・食糧安全保障：食料の安定供給の確保

- ・コンパクト化ができれば、社会的費用と環境負荷の小さい都市の形成が可能。
- ・中山間地域においては、集落のコンパクト化を図り、適正な規模の集落の形成と維持

非効率な公共投資の抑制、既存ストックの有効利用

抑えられた公共投資を中山間地域の保全に充て、都市と中山間地域との一体的管理が可能



都市や集落のコンパクト化の実現による今後の公共投資額の1つの考え方
(国土審議会第9回計画部会資料を一部参考に、事務局作成)